

入学試験における出題意図について（2026年度純真学園大学大学院 保健医療学研究科 保健衛生学専攻 放射線技術学分野）

■小論文

本学大学院のアドミッション・ポリシーでは、建学の精神である「気品」「知性」「奉仕」に則り、生命の尊厳を基盤とした豊かな人間性を育み、保健・医療・福祉の分野において社会の要請に応え得る高度専門職業人の養成を目指している。とりわけ保健衛生学専攻 放射線技術学分野では、「現代医療が抱える保健・医療・福祉分野の問題解決に意欲のある人」「多職種連携の実践を通して、全人的医療に貢献したい人」「放射線技術学に関する高い専門性を身につけ、指導者・管理者を目指す人」を受け入れ方針として掲げている。小論文は、これらの資質を、論理的な思考力・表現力とあわせて総合的に評価することを意図して出題した。

設問は二題から一題を選択して論述させる形式とした。第一問は、FPD（フラットパネルディテクタ）の高い検出量子効率（DQE）という特性を活かし、付加フィルタ（銅など）を併用して患者の被ばく線量と画質を最適化する方策を、物理特性と画像処理技術の観点から八〇〇字以内で論じさせる応用問題である。第二問は、放射線の確率的影響と確定的影響について、定義・特徴・代表例・線量依存性の違いを中心に説明し、放射線防護の観点からその意義を述べさせる基礎的知識問題である。いずれも診療放射線技師にとって不可欠な専門知識を正確に理解し、論理的に説明・応用できるかを問うものであり、科学的な思考を基に臨床応用や被ばく低減に資する能力を評価することを意図した。

評価にあたっては、設問の趣旨を的確にとらえているか、DQEや線質硬化、放射線影響などの専門知識を正確に記述できているか、序論・本論・結論の論理的な構成で述べられているかを重視した。第一問については、複数の技術を統合し、課題とその具体的な解決策まで踏み込んで考察できているかを重視し、あわせて表現力・文章力や規定の字数についても評価の対象とした。

なお、試験時間は一二〇分とし、専門的な分析、構想及び記述に十分取り組める時間を確保した。